

「今、僕たちにできること」 社会人野球有志が動画で連帯呼びかけ

毎日新聞 2020年4月15日 12時00分（最終更新 4月15日 12時00分）



動画「今、僕たちにできること」を発案し、自ら出演しているJFE東日本の須田幸太投手＝日本野球連盟公式サポーター提供

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、社会人野球の有志がキャッチボールなどの映像をつないで連帯を呼び掛けている。動画のタイトルは「今、僕たちにできること」。強豪企業チームの主力だけでなく、地方のクラブチームの選手も参加し、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）上で話題になっている。【大矢伸一】

社会人野球は、新型コロナウイルスの影響で7月の日本選手権、5月の全日本クラブ選手権が中止になった。当初4～5月に予定されていた青森、岩手、埼玉の都市対抗1次予選も延期。4月中は対外試合の自粛を余儀なくされている。

「今、僕たちにできること」は、2019年の都市対抗大会で初優勝したJFE東日本（千葉市）で投打の中心選手として活躍し、社会人ベストナインに選ばれた元DeNAの須田幸太投手と今川優馬外野手が発案した。ライバルの大阪ガス、日本生命（いずれも大阪市）、トヨタ自動車（愛知県豊田市）を含む全国の選手、応援団員ら約60人が賛同した。ユニホームを着た1～3人がグラウンドでボールを投げたり、バットで打ったりする姿をリレー形式でつなぎ、選手たちが口々に「コロナに負けるな」「（11～12月に都市対抗大会が行われる）東京ドームで会いましょう」などと呼び掛けている。1分30秒前後の動画4本が、14日までにツイッターやYouTubeチャンネルで公開された。

北海道のクラブチーム、ウイン北広島（北広島市）の内山凌捕手（23）は同じ北海道出身で交友関係のある今川選手から誘われ、協力した。動画の中では、捕手の防具を着けてワンバウンド投球を受け止め、「手洗い、うがい、マスクをして感染予防をしよう」と訴えている。酪農学園大、ルートインBCリーグ栃木の練習生を経て今季入部した内山選手は「命より大切なものは無く、今年で野球が無

くなるわけではない」と強調する。現在は自宅でバットの素振りをしたり、インターネットや書籍で技術を学んだりしているという。

また、沖縄県のクラブチーム、てるクリニック（那覇市）の宮城竹千代投手（25）は、岐阜・朝日大時代に知り合った知人から紹介され「社会人野球を盛り上げたいと思っていたので、ありがたかった」と参加を決めた。映像では「元気なプレーを必ず球場で」と発言し、ピッチングを披露している。自宅で自主トレーニングを続ける宮城選手は「試合ができるのであれば、そこに向かって調整していただく。社会人野球はたくさんの人に支えられているので、感謝の気持ちを持って全力プレーを心掛けたい」と意気込む。

社会人野球を統括する日本野球連盟事務局は「個人ベースの企画だが、連盟の公式ツイッターや公式サポーターのユーチューブチャンネルで拡散に協力している。多くの選手が参加しているので好評だと聞いている」としている。

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。画像データは（株）フォーカスシステムズの電子透かし「acuagraphy」により著作権情報を確認できるようになっています。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.